

【橋本評議員】

「被災コミュニティ維持・再生支援事業」について、岩泉町中心に台風第10号被災者の仮設住宅等への支援ということで事業化して、結果的には執行はなかったということであるが、大変迅速にそういう体制を敷いたという事はいいことだと思う。今後ともそういう風な心構えで、三陸地域への被災があった際には、柔軟な対応をよろしくお願ひしたい。

【山口評議員】

被災地に対応策をいただいてありがとうございました。

その他、特に発言はなく、直ちに議案の審議に入った。

第1号議案「議事録署名人の選出について」

議事録署名人について、議長一任とされたので、議長は大平評議員と中居評議員の2名を指名した。

第2号議案「平成29年度事業計画及び収支予算の承認について」

議長は、第2号議案について事務局に説明を求め、菅原事務局長が説明した。

議長が、第2号議案について質問、意見を求めた。

【橋本評議員】

「三陸地域の交流人口拡大に向けた広域活動調査」の中で、DMO機能の整備とあるが、具体的なイメージはどういったものか。

【菅原事務局長】

日本版DMO候補法人登録制度の中では、マーケティングに基づいた戦略を展開するということがあり、それを推進するために専門人材の配置が求められている。今年度から総括コーディネーターと観光プロデューサーを配置し、実施しているところ。

この部分は引き続きであるが、来年度については、観光地域づくりの部分を県の観光施策との一体的な推進を図るため、機能を観光課に設置することとしており、これに伴い、新たにDMO事業部を設置しようとするもの。DMO事業部長には、県の観光課総括課長があたると想定している。

現在の企画事業部は、マリオスにそのまま残るが、業務の内容としては、主に三陸防災復興博の検討を行っていくもの。両部が連携しながら、三陸地域の総合的な振興に向けた取組を展開していきたいと考えている。

【高評議員】

「被災地の若手経営者等を対象とした人材育成」について、説明にあったように経済

同友会が非常に力を入れていた。レベルの高い人材育成でハードな部分もあったが、参加メンバーや講師等は、機会があれば別の形でお手伝いしたいという話もあるので、そういうところも念頭にいられていただきたい。

【菅原事務局長】

支出経費の中には、講師の謝金等も計上している所であるが、なかなか通常の予算ではお願い出来ないような方々にこれまで支援していただいているので、調整をしながら、できるだけ協力してもらうような形で考えていきたい。

また、オリンピック・パラリンピックの経済団体支援組織の中でも、被災地に対する人材育成の支援をメニューに入れているところもある。多方面からご協力いただけるように検討していきたい。

【橋本評議員】

「地域コミュニティ再生支援事業」について、今年度も12件採択して実施しているが、来年度は、台風災害により集中的な被害を受けた地域のコミュニティ再生に主眼を置いているようだが、対象地域の違いはあるのか。

【菅原事務局長】

対象地域については、県北沿岸地域を対象にしており、地域自体はこれまでと同様にするもの。復興の先の地域づくりに向けた取組を支援するというのが今年度であり、これは引き続き、来年度も同様とするが、採択の基準として、特に被災された地域から要望があった場合には、優先的に採択していきたいところ。

【菅原評議員】

「被災地の若手経営者等を対象とした人材育成」について、今まで取組んでいたことをさらにどういう点を強化、発展させるのか。今までの成果がまとめられていると思うが、来年度についてはどういう計画をたてているのか。

【菅原事務局長】

これまでの取組については、きめ細かく、中央の著名な方に支援いただきながら取組んでいたというのがあり、支援をいただかないと継続できないというところもあるので、どのような形にできるのかということもこれからの検討になる。今年度取組んできたことが生かされるような形で工夫していきたい。今年度受講された地域として、釜石・大船渡地区のご意見をいただきながら、研修の中身をつめていきたい。

【菅原評議員】

是非期待している。高度な中身だった気がするので、地域の実態にあった形で展開していただければいい。皆さん期待していると思う。

【中居評議員】

三陸防災復興博について、各地域で開催していくということで、かなり地域振興にとっては、大きなインパクトがあると思う。実際に企画立案する際には、各市町村との相談ややりとりを丁寧をお願いしたい。各地域の独自色が出るように是非お願いしたい。

【菅原事務局長】

来年度以降、各市町村と議論を深めてまいりたい。

沿岸市町村でも復興の先を見据えた連携組織として、三陸連携会議が設置され、今後、観光振興等のワーキンググループが設置されるということで、目的が重なる部分も多いかと思うので、そういったところと連携しながらすすめていきたい。

【大平評議員】

三陸防災復興博は、これからの検討になる。さんりく基金だけで全て持つわけにはいかず、大規模なイベントとなるので、県及び市町村も中心となるもの。沿岸市町村からご理解をいただかなければいかず、各自治体で復興の状況も違うので、丁寧に、地元の意見を聞きながらすすめていただきたい。

人材育成については、今まで経済同友会という大きな組織に支えてもらっていたが、地元でやるとなると同じ事はできない。今年は試行的なやり方もやむを得ない。アイリスオーヤマの社長など、被災地を度々訪れてもらっているという事もあるので、支援していただいたが、何人もの方にずっと支援いただくということにはできない。

産業支援機関とも意見交換しながら、あとあと残るようないい仕組みづくりができればよい。長い取組の今年スタートになるようなものなので、そういう風な視点で取り組んでいただきたい。

議長が他に質問、意見を求めたが、特に発言はなく、第2号議案の賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを承認した。

議長は、その他質問、意見を求めたが、特に発言はなく終了した。

以上をもって議事の全部の審議及び報告等を終了したので、議長は午前 11 時 45 分閉会を宣言した。